

神谷上切遺跡

所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 35 秒
東経 137 度 18 分 6 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 23 年 10 月、平成 24 年 2 月

調査面積 50 m²

担当者 鵜飼雅弘・本田英貴・石井香代子



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

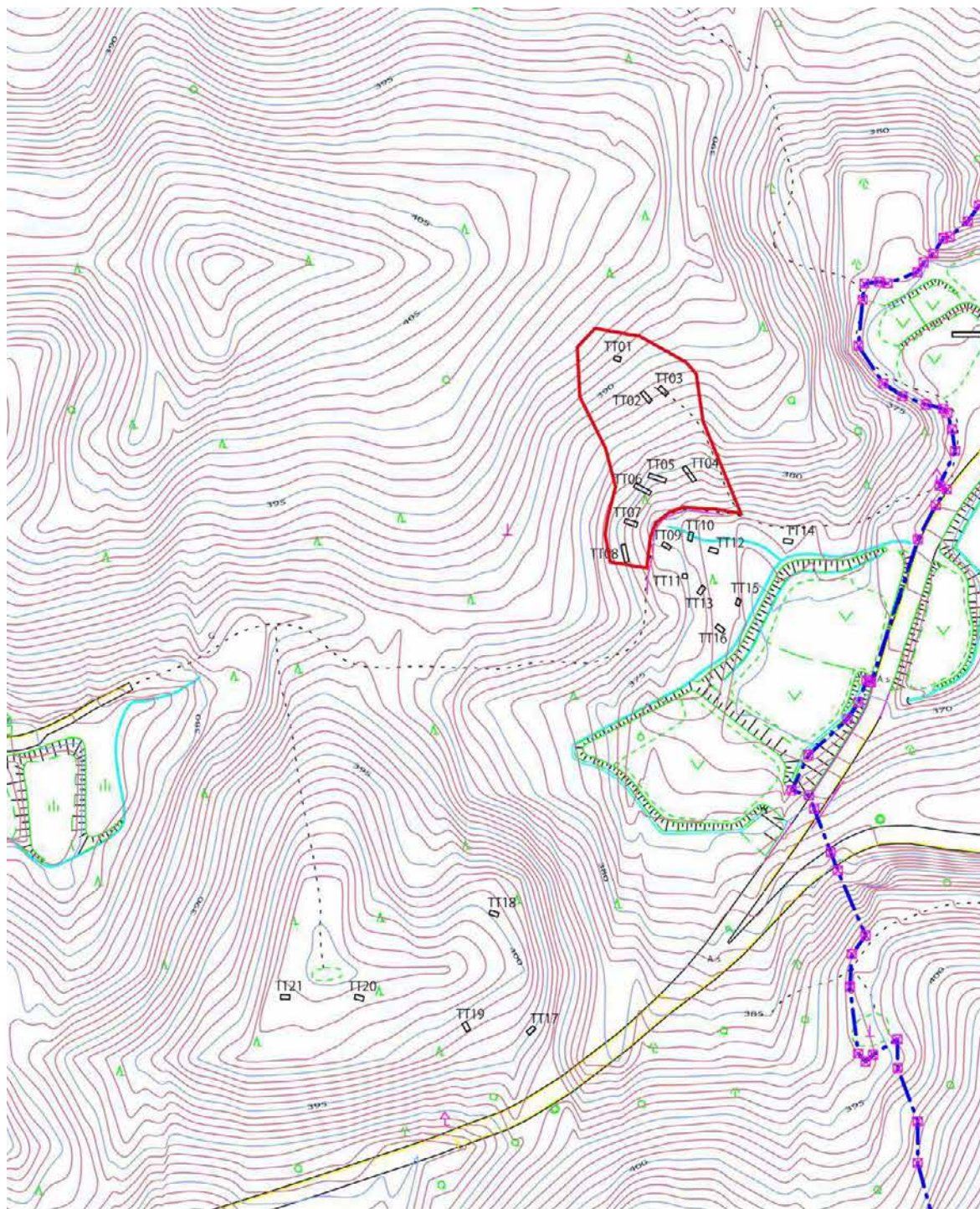
調査の経過 神谷上切遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 本遺跡は田代集落の西端に所在し、旧耕作地と山林からなる。旧耕作地の北側斜面には、集落から続く道がはしる。平成 19・20 年度の分布調査では山茶碗、内耳鍋、土器が採集されている。平成 21 年度の財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターによる旧耕作地の範囲確認調査では、山茶碗、土師質鍋、中近世の遺物は確認したが、遺構は確認していない。

調査の概要 試掘坑は北側斜面の集落から続く道の北側に 8 ヶ所 (TT01～08)、道の南側の 4 段に別れる平坦面に 8 ヶ所 (TT09～16)、南西部尾根に 5 ヶ所 (TT17～21) の計 21 ヶ所を設定し、遺構・遺物の有無と堆積状況の確認を行った。

北側斜面の上部では TT01～03 では明確な包含層は確認できなかったものの、TT01、02 で古瀬戸、山茶碗が出土した。道に面した平坦面に設定した TT04～08 では腐葉土の下に砂質が強い層が続き、地山に至るが、TT04～06 では湧水が激しい。TT04 では溝 1 条を、TT07 では埋土から山茶碗が出土した土坑 1 基をそれぞれ検出した。なお、TT04～07 では腐葉土直下の褐色シルト層から緑釉小皿、山茶碗、羽釜が出土している。

道の南側 (TT09～16) では、表土直下から湿地性の堆積が続き、中～近世・幕末の遺物が混在して出土する。堆積状況や遺物の出土状況から近世以降の耕作地への改変が想定される。南西尾根部 (TT17～21) については、浅いところで岩盤、礫層が表れる。遺物・遺構ともに明確な所在は確認できなかった。(本田英貴)



神谷上切遺跡 (S=1/1,000)
 ※赤枠は遺跡範囲

ひきちかみぎり
引地上切遺跡

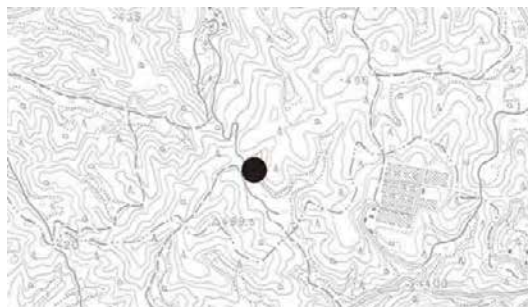
所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 4 秒
東経 137 度 18 分 30 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成

調査期間 平成 23 年 10 月～平成 23 年 12 月

調査面積 600 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 引地上切遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

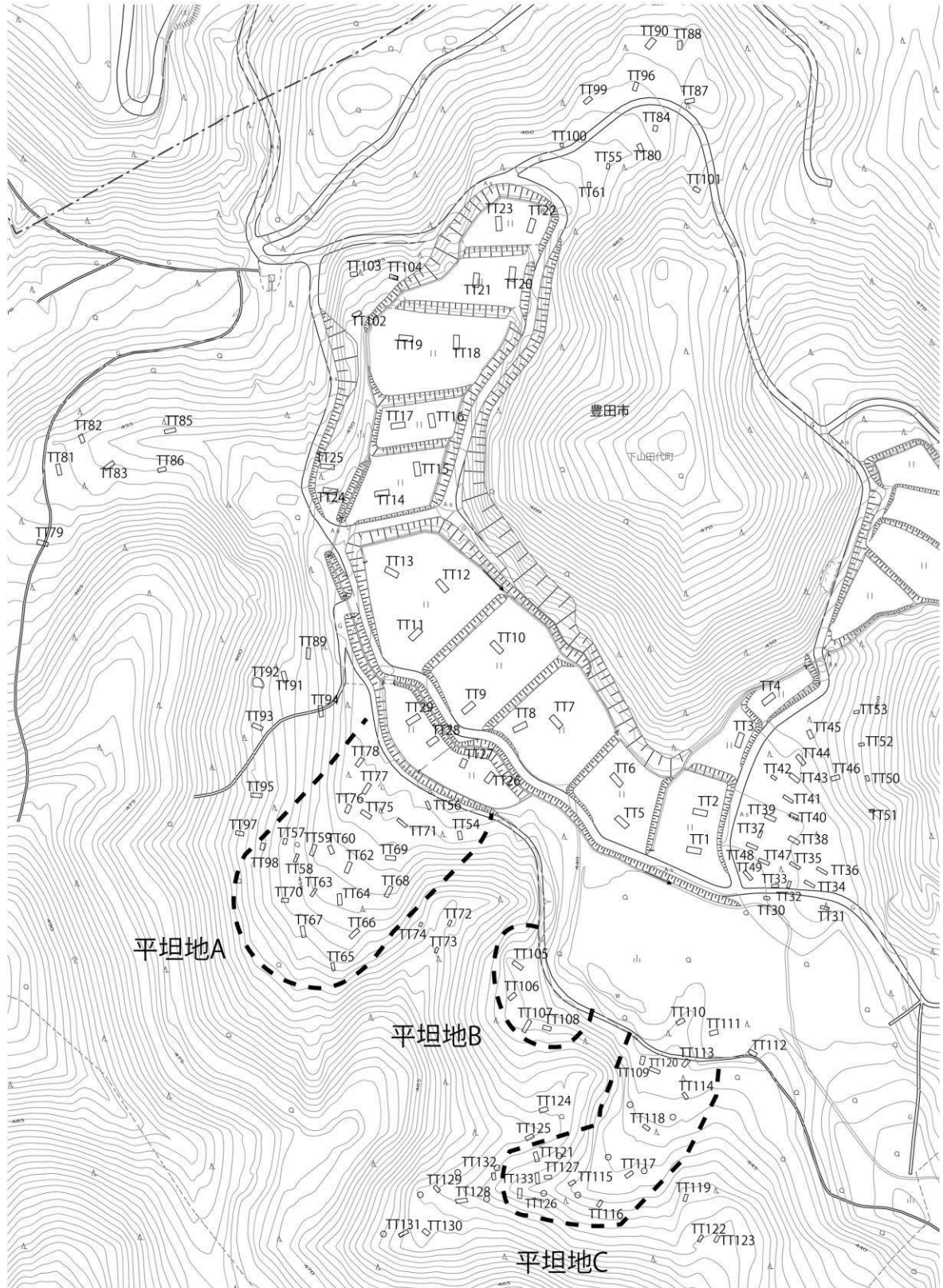
立地と環境 引地上切地点は保久川支流の上流域に立地し、東にはオンボ地点が隣接する。地形的には北から南西方向に向かう大きな谷を中心に大小の尾根と谷が入り組んでおり現況は水田と山林、また現在の標高は海拔 460m 前後である。

調査の概要 引地上切遺跡に設置した 133 カ所の試掘坑 (TT01～TT133) のうち、遺跡の広がり確認できたのは、山林部に設置したトレンチからであった。谷の南部に位置する 3 カ所の平坦地 (平坦地 A～C) で、黒褐色系シルトの堆積と古代・中世を中心とした遺構・遺物を確認した。

平坦地 A 遺物は黒褐色系シルトから縄文土器・灰釉陶器・土師器・山茶碗・近世陶磁器が出土している (TT56・57・60・63・64・66・68～70・75・77・78)。遺構は平坦地 A の中程に位置する試掘坑 (TT58・59・62・64・68) から集中的に見つかっている。遺構の検出面は暗オリーブ褐色層～黒色層であり、TT58 から土坑 1 基、TT59 からピット 1 基、TT62 からピット 3 基、TT64 から土坑 1 基、TT69 から土坑 2 基を検出した。

平坦地 B 遺構を確認する事はできなかったが、平坦地 A で遺構を検出した黒褐色層が一帯に広がっていることを確認した。

平坦地 C 平坦地 C では、TT113 から土坑 1 基・溝 1 条、TT121 からピット 6 基、TT126 から溝 1 条、TT127 から土坑 1 基を検出した。遺構検出面は黄褐色層である。平坦地 C では遺物が全域にわたって多く出土しており、TT114 で中世陶器、TT117 で灰釉陶器、TT115・117・121・127・128 で山茶碗、TT121 で完形の山茶碗の小皿が出土した。
(奥野絵美)



引地上切遺跡トレンチ位置図(S=1:1000)